（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	杜の風 いろ葉			
○保護者評価実施期間	令和6年10月15日		～	令和6年10月25日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	13名	（回答者数）	13名
○従業者評価実施期間	令和7年1月10日		～	令和7年1月17日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	8名	（回答者数）	8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月27日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・支援の内容をLINEで送信している	・利用した当日の夜までには、その日の活動の様子を利用児保護者のLINEへ送信し、利用児の情報を事細かに詳しく伝えている。 ・文章だけでなく、利用児のその日の活動写真画像も添付することで、楽しく活動している様子をお伝えしている。	・積極的に事業所の活動をお伝えすることで、保護者が安心して利用児を預けることが出来るよう努める。 ・支援修了後にLINE送信を行うことで、支援時間帯に連絡帳等の記入作業が不要となる為、職員が支援に集中することができる。
2	・送迎時の保護者、学校対応	・直接支援をしている職員が送迎を行っているので、保護者との毎日の会話で、利用児の情報を伝えあい、出来た事や課題等の情報共有をリアルタイムで行うことが出来ている。 又、学校の先生とも毎日の活動の様子を伝えあう事で、一貫した支援を行うことが出来ている。	・利用児の送迎前には、職員全員が対象児について、連絡事項や保護者へ伝える事項などを確認し合い、送迎担当職員が情報を集約してから送迎に出発し、保護者との円滑なコミュニケーションを取ることが出来る。
3	・長期休み（イベント、行事）の充実	・長期休みには毎日イベントを企画し、長期休みに入る前に事前にイベント予定表（プリント）を配布している。ホームページでも告知している。 ・利用児に分かりやすいようにイラストを入れているので、利用児が予定表（プリント）を見て、毎日楽しみに通所出来るよう努めている。	・長期休み中は、保護者の送り迎えの利用児が多いので、朝の受け入れ時間帯を保護者の通勤時間に合わせて柔軟に対応する。ギリギリではなく、余裕を持って来所していただくことで、職員と保護者の会話時間が生まれ、円滑なコミュニケーションを取ることが出来る。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・第三者による外部評価が行われていない	・社会福祉協議会の第三者評価事業を利用しようと問い合わせた所、費用が35万円かかるとの事で見送った経緯あり。	・期間が書類の準備を含めて数か月に渡るらしく、時間とお金に余裕のある時期に行うことが望ましいと考えている。
2	・職員の高齢化	・現在在籍している職員は20代や30代前半の職員がいない為、児童が中学生、高校生となり体格や力が強くなるのに反比例して職員が年々高齢化するので、体力、脚力に関しては不安がある。 ・ハローワークに求人を出しているが、20代30代からの応募がほぼ無い。	・賃金水準の見直し、福利厚生の見直し、有料人材紹介事業者などを利用することを検討している。
3			